

見出し	地震で心配なこと、困ること				対策
家屋の心配	家の倒壊、火事が不安	隣に家は古くて壊れるかも	古くなった家屋の倒壊が心配	家が倒れるかもしれない	家や家具を心配しよっちゃいかん！ ・とりあえず命を守ることを考える(個人的)
	家具固定の仕方	家具が倒れそう(止めてはいるけど)	物が落ちてケガしそう	家財道具でのケガが心配	家具を固定する ガラス飛散防止フィルム(ホームセンターで売っている) 家具の止め方を考える 家具の固定 置き場所の再検討
	ガラスが割れたら、物が散乱したら歩けない	寝室へのガラスの飛散・ケガ			靴を用意する 物の置き場所を変える
					耐震診断を受ける 耐震診断を受けてみる 耐震診断をする 補強工事をする、またす
とっさの対応	夜の地震だと見えなないのでパニックになる	地震で動くことができなくなる	寝よったら起き上がれん	起震車の体験をしたが、震度6ではとても動けないと思った ガス栓やブレーカーをおとすなどできないと思った	地域で避難訓練をする 起震車など防災の訓練をする
逃げる時には	防災グッズをどこに置いておけばいいのかわからない	避難生活の水・食料を用意しているが、地震が起こったら持ち出せないと思う(意外に重くかさばっている)	火災の発生の対応	水、飲料水をどうする	大切な物は枕元に置く
	救援物資の必要な場所へ必要なものがタイミングよく届いたらいいな、と思っている	非常持ち出しは各地区により異なる			個人で用意するものと地域の避難場所のものを使い分けして周知する
					持ち出せるものには各自限界があるので やはり行政、地域を頼りにしちゅうヨ
正しい情報	テレビの地震情報を見ていたら出られない(情報が遅い)	想定地震エネルギーは昭和の4倍	災害の進化(新しい対応を)		各地区、各家庭での災害を予想すること 平均寿命が長くなり、小学校からの教育 最大の人的被害は、9,600人内情報7,000人 がないと 3,500人になる 常に新しい情報を行政が出していく 周知 組みをつくる
災害弱者の対応	お年寄りの1人暮らしの人は、どうやって避難できるのだろうか	地域にいる障害者、老人が逃げられるか	近くの1人住まいのおばあちゃんも心配	倒壊した家に人が閉じ込められる	弱者マップを作っておく(民生委員に協力) 弱者の情報を集め、地域でその対応の仕方を考える 近所の家に声をかける
					地域防災会の育成に力を 防災組織をつくる(できていない所)
災害	山が崩れるかも	大津は地盤が弱い揺れが大きいかも水に浸かるかも			地域で災害の起こりそうなことを情報共有
	逃げる場所まで行けないかも	家から避難所へ行く安全な道が分からない(ブロック塀、雷)	避難場所が他地区の方がより近くも1歩の時はそちらを	例えば市外や他地域に出かけていた場合、とりあえず近くの場所へ避難したとしてその後自分の地域へ	各地区の公民館の耐震診断を急ぐようにしたい 避難施設(学校)の人員の調整について

<b>避難場所について</b>	避難場所の公民館の安全性に不安	地震が起きた時、どこにいても最も近い避難所がどこか分からない	今知っている避難地は結構小さめに見えるが、自分たちがあぶれた時にどうしたら良いのか分からない	長期避難が地域の学校等の人員の割り当てに不安	避難所での会合をもつ ・リーダーを決めておく ・学校、地域で避難経路を調べてみる ・防災マップをつくる
<b>連絡</b>	家族との連絡方法	自分が居ない時、家族が避難できるか不安	日中だったら子供と連絡とれない		家族で連絡方法等打合せ

開催地 南国会場  
2 班

	誰 が			いつ		
	自分	地域	行政	今から	その時	被災後
に)						
ムを貼る						
は建て直						
で用意する						
で、不足分						
0津波意識 印させる仕						
りしてもら 土方を考え						
育する						
こしてもらい 地区全体						

五五五
